

最古の鬱陵島絵図2枚確認

「石島は独島」説否定

下條氏 指摘 韓国側論拠に誤り

日韓が領有権を主張する竹島(韓国名・独島)とかわりの深い韓国・鬱陵島の属島として、現在の竹嶼(チクシヨ)と観音島の二島を描いた最も古い朝鮮の絵図二枚が、確認された。二島を認識していたことで韓国側が自国領とする根拠が一段と弱まったと、日本の研究者は指摘している。



「鬱陵島図形」で、鬱陵島の独島博物館であった特別展の図録への収録を、島根県の竹島資料室



独島博物館特別展の図録に収録された1699年作製とみられる「鬱陵島図形」。右側にある現在の竹嶼の位置に「大于島」、観音島の位置に「小于島」の記載がある。



1702年作製とみられる「鬱陵島図形」。1699年の絵図とは逆方向から描かれており、于島「小于島」は左側にある

が確認。鬱陵島東側の竹島(ドクト)として、自嶼と観音島の位置に「大于島」と「小于島」が描かれ、朝鮮王朝が両島を鬱陵島の属島と認識していたことがわかる。韓国側は、日本が竹島を島根県に編入した一九〇五年の五年前に大韓帝国政府が出した「勅令第四一号」で、鬱陵島の行政区域を「鬱陵島と竹島、石島」とし、石島(ソク島)が発音の似ている独島(トクト)と見做すとしている。島根県の竹島問題研究会の座長だった下條正男氏が発音の似ている独島(トクト)と見做すとしている。島根県の竹島問題研究会の座長だった下條正男氏が発音の似ている独島(トクト)と見做すとしている。

理的に鬱陵島から九十二島探査を命じられた役人でも離れた現在の竹島ではなく観音島とみられるとした研究会の見解が、正しいことが裏付けられる」と指摘している。作製時期について下條氏は、朝鮮王朝を記録し、一一年の「鬱陵島図形」をさかのぼるとした。